鈴鹿工業高等専門学校	材料工学科	開講年度	平成28年度 (2016年度)
学科到達目標			

本コース修了者は、中京地区の特色でもある材料に関連の深い工業技術分野からの要請に基づき、材料工学に関する基礎理論と実験技術を背景に各種工業分野で活躍できる実践的技術者として以下の知識・技術・能力を身につけている必要がある。

- (A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)
- <視野>多様性を積極的に肯定し、グローバルな視点から多角的に物事を見つめ考察できる(a)
- <技術者倫理>材料の製造・利用・廃棄に関する技術が社会および自然に及ぼす影響を把握し,技術者として社会に対し果たさなければならない責任を自覚できる(b)
- <意欲>技術の進歩に対応して最新の情報を収集・理解し、社会の新たなニーズに合った課題を見いだし、自主的・継続的に学習できる (e, g) (B) 基礎・専門の知識とその応用力 (c, d, e, h)
- <基礎>材料工学の基本を理解し諸問題を解決するために必要な数学,自然科学,情報技術に関する知識と応用力を習得している(c)
- <専門>材料の構造・性質・機能および製造・加工についての基本を理解し,その利用や新しい材料の開発,材料に関連した諸問題の解決に応用できる(d)
- <展開>身に付けた科学・技術や知識・情報により創造力を発揮し、限られた条件の下に自らの課題について実験を計画・遂行し、その成果をまとめることができる (c, d, e, h)
- (C) コミュニケーション能力(f)
- <発表>自らの課題に対して日本語により論理的に記述・伝達・討論できる(f)

<英語>英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)

	(実品/ 実品による基本的なコミューケーションが Cell						学年別週当授業時数																			
						15		<u> 1991</u>		2年				3年			4年	=			5年	:				
科目分	国区	授業科目	科目番 号	単位種 別	単位数	前	•	後		前		後	_), 前		後	前		後		前		後		担当教員	履修上 の区分
			. ,	,,,,		1 Q	2 Q			1 Q	2 Q		4 Q			3 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q				4 Q	~	
般	必修	国語 I A	0001	履修単位	2	2		2																_	各学年 担任	
一般	必修	国語 I B	0002	履修単 位	2	2		2																	<u></u> 川合 洋 子	
一般	必修	世界史 I	0003	履修単位	2	2		2																	 藤野 月 子	
一般	必修	地理	0004	履修単 位	2	2		2																\neg	岡 芳樹	
一般	必修	基礎数学A	0005	履修単 位	4	4		4																	南部 智憲	
一般	必修	基礎数学B	0006	履修単 位	2	2		2																	小林 達 正	
— 般	必修	物理	0007	履修単 位	2	2		2																		
一般	必修	化学	0008	履修単 位	2	2		2																	小林 達 正	
般	必修	英語IA	0009	履修単 位	4	4		4																	小林 達 正	
— 般	必修	英語 I B	0010	履修単 位	2	2		2																	創造活 動プロ ジェク ト 担当 教員	
般	必修	保健体育(実技)	0011	履修単 位	1	1		1																	各学年 担任	
— 般	必修	保健体育(保健)	0012	履修単 位	1	1		1																	宝来 毅	
— 般	必修	保健体育(武道・剣道)	0013	履修単 位	2	2		2																	細野 信幸	
— 般	必修	保健体育(武道・柔道)	0014	履修単 位	2	2		2																	松澤二	
— 般	選 択	美術	0015	履修単 位	2	2		2																	浅井 清 貴	
— 般	選 択	音楽	0016	履修単 位	2	2		2																	阿部 浩 子	
— 般	選 択	書道	0017	履修単 位	2	2		2																	樋口 弓 弦	
— 般	選 択	海外語学実習	0018	履修単 位	1	1		1																	全学科 全教員	
専門	必修	情報処理 I	0019	履修単 位	2	2		2																	岡 芳樹	
	必修	設計製図 I	0020	履修単 位	1	2																			幸後 健	
専門	必修	材料工学序論	0021	履修単 位	1	2																			小俣 香 織	
専門	必修	材料工学実験	0022	履修単 位	2			4																	兼松 秀 行,小 俣 香織	

							創造活
専門	選択	創造工学演習	0023	履修単 位	1		動プロ ジェク ト 担当 教員
専門	選択	インターンシップ	0024	履修単 位	1		各学年 担任
般	必修	国語Ⅱ	0001	履修単 位	2	2 2	久留原 昌宏
— 般	必修	世界史Ⅱ	0002	履修単 位	1		山口 修
般	必修	政治・経済	0003	優修単 位	2		渡邉 潤爾
般	必修	倫理・社会	0004	履修単 位	1	2	奥 貞二
— 般	必修	線形代数 I	0005	履修単 位	2		片岡 紀智
— 般	必修	微分積分 I	0006	履修単 位	4	4 4	豊田 哲
— 般	必修	物理	0007	履修単位	3	3 3	三浦陽 子,仲 本朝基 ,丹波 之宏
- 般	必修	 化学	0008	履修単 位	2		澤田圭樹
一般	必修	生物	0009	履修単位	2		坂口林香
一般	必修	英語 II A	0010	履修単 位	2		浜口仁
—	必修	英語 II B	0011	履修単位	3		松尾 江 津子 ,Laws on Micha el
— 般	必修	保健体育	0012	履修単 位	2	2 2	舩越 一彦
一般	選択	海外語学実習	0013	履修単 位	1	1 1	全学科 全教員
専門	必修	情報処理Ⅱ	0014	履修単 位	1	2	岡 芳樹
専門	必修	設計製図Ⅱ	0015	履修単 位	1		南部 智憲
専門	必修	機械工作法	0016	履修単 位	1	2	小林 達 正
専門	必修	基礎材料学	0017	履修単 位	2	2 2	
専門	必修	ものづくり実習	0018	履修単 位	2		小林 達 正
専門	必修	材料工学実験	0019	履修単 位	2	4	小林 達正
専門	選択	創造工学演習	0020	履修単 位	1		創造活 動プロ ジェク ト 担当 教員
専門	選択	インターンシップ	0021	履修単 位	1		石谷 春樹
- 般	必修	日本文学	0001	履修単 位	2		久留原 昌宏
— 般	留学生必修	日本語教育IA	0002	履修単 位	2		加藤 彩
- 般	必修	線形代数Ⅱ	0003	履修単 位	1		伊藤 裕貴
般	必修	微分積分Ⅱ	0004	履修単 位	4		川本 正治
般	必修	数学講究	0005	履修単 位	1		伊藤 裕貴
— 般	必修	英語Ⅲ	0006	履修単 位	2		中井 洋生
— 般	必修	英語特講 I	0007	履修単 位	1		Lawso n Micha el
一般	必修	英語特講 🏿	0008	履修単 位	1		長井 み ゆき
						•	

<u></u>	必	保健体育	0009	履修単 位	2		宝来 毅
般	修選択	日本語教育 I B	0010	履修単	1		加藤彩
般	選	海外語学実習	0010	位 履修単			全学科
般専門	択 必修	応用物理 I	0011	位 履修単 位	1		全教員 日村 陽
		心用初達 1	0012		2		次郎 ,丹波 之宏
専門	必修	情報処理Ⅲ	0013	履修単 位	1		幸後 健
専門	必修	設計製図Ⅲ	0014	履修単 位	1	2	万谷 義和
専門	必修	材料組織学	0015	履修単 位	2		万谷 義 和,兼 松 秀行
専門	必修	分析化学	0016	履修単 位	1		小俣 香 織
専門	必修	物理化学	0017	履修単 位	1	2	宗内 篤夫
専門	必修	金属材料	0018	履修単 位	1		兼松 秀
専門	必修	無機化学	0019	履修単 位	1		和田憲幸
専門	必修	有機化学	0020	履修単 位	2		各学年 担任
専門	必修	材料評価学	0021	履修単位	1		注,民実松,小達,南智,和憲,小香,山徹 水縣,孝林,正部憲,田幸,保織,本族 谷 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)
専門	必修	材料強度学	0022	履修単位	1		宗大後 大李健保 後 八香 湯樹 学 生 生 生 生 生 七 七 千 十 2 七 4 七 4 七 4 七 4 七 4 七 4 七 七 七 七 七 七 七
専門	必修	材料工学実験	0023	履修単位	4		創造活 動プロ ジェク ト 担当 教員
専門	選択	ロボットデザイン論	0024	履修単 位	1	2	白井 達 也
専門	選択	創造工学演習	0025	履修単位	1		創造活 動プロ ジェク ト担当 教員
専門	選択	インターンシップ	0026	履修単 位	1		各学年 担任
一般	必修	英語Ⅳ	0042	履修単位	2		中井 洋 生,林 浩士 ,鈴木 孝典
一般	必修	保健体育	0043	履修単 位	2		舩越 一
一般	選択必修	言語表現学 I	0044	履修単位	1		久留原 昌宏
— 般	選択必修	歴史学概論 I	0045	履修単位	1		藤野 月
般	選択必修	技術者倫理入門 I	0046	履修単位	1		奥 貞二

— 般	選択必修	法学Ⅰ	0047	履修単位	1	早野 暁
- 般	選択必修	技術経営 I	0048	履修単 位	1	渡邉 潤爾
一般	選択必修	言語表現学Ⅱ	0049	履修単位	1	久留原 昌宏
—	選択必修	歴史学概論Ⅱ	0050	履修単 位	1	藤野 月子
— 般	選択必修	技術者倫理入門Ⅱ	0051	履修単位	1	奥 貞二
- 般	選択必修	法学Ⅱ	0052	履修単位	1	神戸 真 澄,花 田 久丸
- 般	選択必修	技術経営Ⅱ	0053	履修単位	1	渡邉 潤爾
- 般	選択必修	化学特講	0054	履修単 位	1	山崎 賢二
- 般	選択必修	物理学特講	0055	学修単 位	2	仲本 朝基
—	選択必修	現代科学 I	0056	学修単 位	2	丹波 之 宏,三 浦 陽子
— 般	選択必修	現代科学Ⅱ	0057	学修単 位	2	土屋 亨
- 般	選択必修	現代科学Ⅲ	0058	学修単 位	2	坂口 林香
	選択必修	現代科学Ⅳ	0059	学修単 位	2	安藤 雄太,小松 謙介
— 般	選択	数学特講 I	0060	履修単 位	1	伊藤 清
般	選 択	数学特講Ⅱ	0061	履修単 位	1	堀江 太郎
—	選択	日本語教育Ⅱ	0062	履修単 位	1	加藤 彩
一般	選択	海外語学実習	0063	履修単 位	1	全学科 全教員
専門	必修	応用数学 I	0064	履修単 位	2	松岡勇気
専門	必修	応用物理Ⅱ	0065	履修単 位	2	三浦陽子
専門	必修	設計製図IV	0066	履修単位	1	南部智憲
専門	必修	結晶解析学	0067	履修単 位	1	
専門	必修	基礎熱力学	0068	学修単 位	2	宗内 篤
専門	必修	応用熱力学	0069	学修単位	2	和田憲幸
専門	必修	鉄鋼材料	0070	学修単 位	2	川上 博士
専門	必修	軽金属材料	0071	履修単 位	1	<u>六</u> 万谷 義 和
専門	必修	無機材料	0072	学修単位	2	幸後 健
専門	必修	触媒材料科学	0073	履修単 位	1	小俣 香
	必修	高分子化学	0074	履修単 位	1	下古谷博司

専門	必修	有機材料	0075	学修単 位	2	
専門	必修	材料力学	0076	履修単 位	1	湯川伸樹
専門	必修	創造工学	0077	履修単位	2	宗内 第 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 右 大 大 有 大 大 有 大 大 者 和 大 大 者 和 大 大 者 和 大 大 台 も も は り 大 く も も く と も く と も く と も と も と と も と と と と
専門	必修	材料工学実験	0078	履修単 位	4	
専門	選択	機械要素	0079	学修単 位	2	I
専門	選択	電気電子要素	0080	学修単 位	2	注 塚人 柴垣 寛治
専門	選択	創造工学演習	0081	履修単 位	1	創造活動プロンエクト担当教員
専門	選択	インターンシップ	0082	履修単 位	1	
_ 般	選択	英語 V A - 1	0001	履修単 位	1	Lawso n Micha el
—	選択	英語 V B - 1	0002	履修単 位	1	
般	選択	英語 V C - 1	0003	履修単 位	1	長井 みゆき
一般	選択	英語 V A – 2	0004	履修単位	1	Lawso n Micha el
- 般	選択	英語 V B – 2	0005	履修単 位	1	
般	選択	英語 V C – 2	0006	履修単 位	1	Land Land
一般	選択	実用英語	0007	履修単位	1	Lawso n Micha el
般	選択	社会学 I	0008	履修単 位	1	
— 般	選択	中国語 I	0009	履修単	1	
- 般	選択	社会学Ⅱ	0010	履修単 位	1	
— 般	選択	中国語Ⅱ	0011	履修単 位	1	
—	選択	海外語学実習	0012	履修単 位	1	全学科 全教員
専門	必修	統計熱力学	0013	学修単 位	2	
専門	必修	反応速度論	0014	学修単 位	2	
専門	必修	量子力学	0015	学修単 位	2	和田憲幸
専門	必修	材料工学実験	0016	履修単 位	4	
専門	必修	卒業研究	0017	履修単 位	10	
専門	選 択	応用数学Ⅱ	0018	履修単 位	1	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
専門	選 択	工業英語	0019	履修単 位	1	
専門	選 択	情報処理応用	0020	履修単 位	1	

専門	選 択	設計製図V	0021	履修単 位	1		南部 智憲
専門	選択	無機機能材料	0022	履修単 位	1		幸後 健
専門	選択	無機合成化学	0023	履修単 位	1		幸後 健
専門	選択	有機機能材料	0024	履修単 位	1		宗内 篤夫
専門	選択	電気化学	0025	履修単 位	1	2	兼松 秀
専門	選択	材料機器分析	0026	履修単 位	1		宗内 篤夫
専門	選択	半導体工学	0027	履修単 位	1		小林 達正
専門	選択	塑性加工学	0028	履修単 位	1	2	万谷 義和
専門	選 択	鋳造工学	0029	履修単 位	1	2	万谷 義和
専門	選択	材料環境科学	0030	履修単 位	1	2	宗内 篤夫
専門	選択	基礎メカトロニクス	0031	学修単 位	2		白井 達 也,打 田 正樹
専門	選 択	基礎組込みシステム	0032	学修単 位	2		伊藤 明
専門	選択	創造工学演習	0033	履修単 位	1		創造活 動プロ ジェク ト 担当 教員
専門	選択	インターンシップ	0034	履修単 位	1		材料工 学科 全 教員

1 ∪ → +	<u> 上未向</u> も	專門学校	開講年度 平成28年度 (2016年度)	授業科目	有機化学			
科日基的									
科目番号		0020		科目区分	専門 / 必何	多			
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位:	2			
開設学科		材料工学	科	対象学年	3				
開設期		通年		週時間数	2				
教科書/教	材	教科書:	特になし,参考書:インターンシッフ	の手引き					
旦当教員		各学年 担	旦任						
到達目標	票								
料を作成し	し,それを	を通じて, 技 伝えられる.	が者として必要な資質と実践的技術感	覚を体得し, それらを 	日報や報告書	にまとめ, それらをもとに, 発表資			
レーブ!	ノック		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル	 の目安	未到達レベルの目安			
評価項目:	1		担当者の指導の下,自ら進んで実習を遂行できる.	担当者の指導の下, きる.	実習を遂行で	担当者の指導の下,実習を遂行できない.			
評価項目2	2		実習内容を的確にまとめた報告書 を作成できる.	実習内容をまとめた できる.	報告書を作成	実習内容をまとめた報告書を作成できない.			
平価項目:	3		実習内容を的確に整理して発表で きる。 実習内容を整理して発表できる。 実習内容を発表できな						
		頁目との関							
教育方法	丢等	11.0 :				-			
既要			密接な接触を通じて, 技術者として必 の授業内容は, 内容は, 学習・教育到 計画」における各週の「到達目標」は						
受業の進む 	め方・方法	(東京) 【内容】 【期報】 【課題】 【発表】	料を作成し、発表を行う・ 探を作成し、発表を行う・ 機 このでは、 機 このでは、 高専機構が案内する海外・国内イ 勝委員会を経て校長が認めた機関への 第1学年から第3学年の学生が従事でき 野に支障のない夏季体業中等の実働 毎日、日報を作成すること・ インターンシップ終了後に、報告書を インターンシップ発表会を開催するの	まるこりで、 まる実務のうち, インタ 55日以上 作成し提出すること. で, 発表資料を作成し	'ーンシップの ,発表準備を	目的にふさわしい業務 行うこと.			
		<学業成	国を総合して評価する. 評価に対する 績の評価方法および評価基準>「イン	知識・能力」の各項 ターンシップの成績率	目の重みは同	じである.			
主意 点		< 務 < < 、 く さ 、 く さ か ー に > い か ー に > い	目を総合して評価する. 評価に対する 操の評価方法および評価基準>「イン 日報, 報告書および発表により成績を 得条件>総合評価で「可」以上を取得 じめ要求される基礎知識の範囲>心得 トなど>日報は, 毎日, 作成し, 報告: 提出すること. 発表会用に発表資料法 インターンシップの内容は, 第1学年大 学務であること. 実習機関の規則を蘭 シップの手引き, 筆記用具, メモ帳(・ターンシップにおける取得単位は, 第	ターンシックの放領評 評価すること。 時間の厳守(10分前負 書も作成し、実習指導 よび発表の準備をする いら第3学年の学生が従 守すること、評定書を	目の重みは同 画基準」(こ定め (こう) 、挨拶、 (こと) (大学の) (できる) (大学の) (大	じである。 bられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に のうち、インターンシップの目的にふ 取ったら、担任に提出すること、イ			
主意点 受業計画	画	< 務 < < 、 く さ 、 く さ か ー に > い か ー に > い	傾の評価方法および評価基準> イブン 日報、報告書および発表により成績を 得条件>総合評価で「可」以上を取得 じめ要求される基礎知識の範囲>心得 トなど>日報は、毎日、作成し、報告: 提出すること・発表会用に発表資料去 インターンシップの内容は、第1学年だ 業務であること・実習機関の規則を施	ターンシックの放領評 評価すること。 時間の厳守(10分前負 書も作成し、実習指導 よび発表の準備をする いら第3学年の学生が従 守すること、評定書を	目の重みは同 画基準」(こ定め (こう) 、挨拶、 (こと) (大学の) (できる) (大学の) (大	かれいに配点に使って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に かうち、インターンシップの目的にふ 取ったら、担任に提出すること、イ			
	画	< 務 < < 、 く さ 、 く さ か ー に > い か ー に > い	傾の評価方法および評価基準> イブン 日報、報告書および発表により成績を 得条件>総合評価で「可」以上を取得 じめ要求される基礎知識の範囲>心得 トなど>日報は、毎日、作成し、報告: 提出すること・発表会用に発表資料去 インターンシップの内容は、第1学年だ 業務であること・実習機関の規則を施	ターシシックの成績評 :評価する. :すること. /時間の厳守(10分前算 書も作成し,実習指導 よび発表の準備をする から第3学年の学生が従 :守すること. 評定書を 手帳),日報,実習先が 11学年から第3学年を近	目の重みは同 画基準」(こ定め (こう) 、挨拶、 (こと) (大学の) (できる) (大学の) (大	じである。 りられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に のうち、インターンシップの目的にふ かったら、担任に提出すること。イ いる物、評定書を持参すること。なお 単位とする。			
	画	マ	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学する。 評価する。 特間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導である。 とい発表の準備をする。 いら第3学年の学生が従 で守することは、評定書を 手帳)、日本の第3学年を選 1学年から第3学年を選	目の重みは同価基準」に定め に定め に定め に定め に定め を を を を を を を を を を を を を	じである。 りられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に のうち、インターンシップの目的にふ かったら、担任に提出すること。イ いる物、評定書を持参すること。なお 単位とする。			
	画	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの放領評学ですること: 「時間の厳守(10分前算書も作成し,実習指導でいら第3学年の学生が確定するごと・評定書を手帳」の日報、実習先が11学年から第3学年を通過であること。ま習先が11学年から第3学年を通過である。	目の重みは同価基準」に定め を合)、挨拶、 きこと、 事できる実務に 事最終日にされてい がして、最大1 でとの到達目標 支術者として必	じである。 りられた配点に従って、勤務状況、勤 お礼など) を受けて、インターンシップ終了後に のうち、インターンシップの目的に 取ったら、担任に提出すること、イ いる物、評定書を持参すること、なる 単位とする。			
	<u> </u>	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの放績評学 デーグラン・ すること・ にはいるでは、大学のでは、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	目の重みは同価基準」(に定め に定め に定め に定め にである。 にできる。 にで。 にできる。 にで。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にでさ。 にできる。 にで。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にで	じである。 bられた配点に従って、勤務状況、勤めれなど) を受けて、インターンシップ終了後に のうち、インターンシップの目的に 取ったら、担任に提出すること。イ いる物、評定書を持参すること。なる 単位とする。			
	<u></u>	マ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの放績評学であること。 呼間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導書も作成し、実習指導部から第3学年の学師をすること。 手帳)の日報、実習先がに守することを書き、 手帳)の日報、実習先がは1学年から第3学年を通過。 1. きること。 週こ	目の重みは同価基準」に定め に定め に定め に定め に定め に定め にである。 にである。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にでい。 にでいる。 にでい。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでい。 にでいる。 にでい。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでいる。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでい。 にでいる。	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤めれた配点に従って、勤務状況、勤めれなど) で受けて、インターンシップ終了後に かっち、インターンシップの目的に なったら、担任に提出すること。なる 対したする。 なる物、評定書を持参すること。なる 対位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。			
	画 lstQ	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの放績評 デース (目の重みは同かは同かまとう。 にこれが、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、董お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に かうち、インターンシップの目的にが 取ったら、担任に提出すること。なる 単位とする。 と要な資質が分かり、それらを体得できる。 と日報にまとめることができる。 と報告書にまとめることができる。			
		Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、ない、ない、ない、ない、ないいい、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、董お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に かっち、インターンシップの目的に、 取ったら、担任に提出すること。 なる 単位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得で が分かり、それらを体得で を要な資質が分かり、それらを体得で を要な資質が分かり、それらを体得で を要な資質が分かり、それらを体得で を要な資質が分かり、それらを体得で を要な資質が分かり、それらを体得できる。 を要な資料にすることができる。			
		Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、ない、ない、ない、ない、ないいい、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、難 お礼など) で受けて、インターンシップ終了後に かうち、インターンシップの目的にが 取ったら、担任に提出すること。なる 対位とする。 と ないる物、評定書を持参すること。なる 対位とする。 と はいるがかり、それらを体得できる。 と 日報にまとめることができる。 と 取告書にまとめることができる。			
		Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、ない、ない、ない、ない、ないいい、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にが取ったら、担任に提出すること。なる物、評定書を持参すること。なる単位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画		Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、ない、ない、ない、ない、ないいい、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にが取ったら、担任に提出すること。なる物、評定書を持参すること。なる単位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画		Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、ない、ない、ない、ない、ないいい、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にかいる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画		Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、ない、ない、ない、ない、ないいい、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にかいる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画		Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、ない、ない、ない、ない、ないいい、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ないは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にかいる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にが取ったら、担任に提出すること。なる物、評定書を持参すること。なる単位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画		Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にが取ったら、担任に提出すること。なる物、評定書を持参すること。なる単位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にが取ったら、担任に提出すること。なる物、評定書を持参すること。なる単位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にかいる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	YR YR YR YR YR YR YR YR	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にかいる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	YR YR YR YR YR YR YR YR	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にかいる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にないる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にないる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にないる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
受業計画	1stQ	Y	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にかいる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			
	1stQ	YR YR YR YR YR YR YR YR	傾の評価方法および評価基準> イブテロ報,報告書および発表により成績を保条件>総合評価で「可」以上を取得じめ要求される基礎知識の範囲>心得トなど>日報は,毎日,作成し,報告:提出すること、発表会用に発表資料はインターンシップの内容は,第1学年が、学のプの手引き,筆語用具,メモ帳(デターンシップにおける取得単位は,第	ターンシックの成績評学のできません。 「時間の厳守(10分前算書も作成し、実習指導では、び発表の準備をする。」 「では、大学・では、ないは、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、大学・では、いいは、大学・では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	目の重みは同の重みは同の重みに定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 に定め、 にできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	じである。 かられた配点に従って、勤務状況、勤められた配点に従って、勤務状況、勤めれなど)で受けて、インターンシップ終了後にひっち、インターンシップの目的にかいる物、評定書を持参すること。なる地位とする。 な要な資質が分かり、それらを体得できる。 を日報にまとめることができる。 を報告書にまとめることができる。 を発表資料にすることができる。			

		8週							
		9週							
		10逓	1						
		11逓	1						
	lthO	12週	1						
	tuiQ	13週	1						
		14逓	1						
		15逓	1						
		16週	<u> </u>						
モデルコ	アカリキ	ユ゠	5ムの学習	内容と	到達	目標			
分類		:	分野	学習内容	\$	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
						企業等における技術者の実務を理解できる		4	
						企業人としての責任ある仕事の進め方を理	解できる。	4	
						企業における福利厚生面や社員の価値観な の進路としての企業を総合的に判断するこ る。	4		
						企業における社会的責任を理解できる。		4	
						企業活動が国内外で他社(他者) とどのよう 理解できる。	4		
専門的能力	専門的能	:カ :カ -	インターン シップ	インター	-ン	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が 活用・応用されているかを理解できる。	4		
כלטמנייני ודא	の実質化		シップ	シップ		企業人として活躍するために自身に必要な き、それを高めようと努力する姿勢をとる		4	
						コミュニケーション能力や主体性等の「技 」の必要性を理解できる。	析者が備えるべき能力	4	
						実際の企業人等との仕事を通して自身のキ 化することができる。	ャリアデザインを明確	4	
						社会経験をふまえ、企業においても自分が 要であることを認識できる。	成長していくことが必	4	
						実務体験を企業や職種とのマッチングの場 行動ができる。	として考えて積極的な	4	
評価割合									
					取り		合計		
総合評価割る	<u> </u>				100	100 100			
配点					100 100				

		高等専門学校	交 開講年度	夏 平成28年度	(2010年長)	授業科	目 設計製図1	• •
科目基	礎情報						•	
<u> </u>		0066			科目区分	専門	/ 必修	
授業形態	ŧ	授業			単位の種別と単		単位: 1	
開設学科	ļ	材料工			対象学年	4		
開設期	-	前期			週時間数	2		
<u> </u>	 数材	「製図]」 原田 昭 他7		基礎製図練習ノ		版)	
担当教員		南部を		<u>а</u> (услуш///) /	工机农口水口	Г (Жалы	////	
到達目		ITTUR E	7/6/					
	-	+ +4%++> ¬ -	- /	CAD > 7= / ±:=:	、		ゾニュストがオナス	
		に筬州ン人ナ	-ムの設計を行い,	CAD システムを用い	ハ(凶子の知識を活	i用した製図を	行つことかできる).
レーノ	リック		<u> </u>		1		1	
			理想的な到達	レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レハ	ベルの目安
評価項目	•							
評価項目	•							
评価項目	13							
学科の	到達目	票項目との	関係					
教育方	 法等							
既要		CADの ・すべ)基礎的事項の習得を 、ての内容は、材料。	をはかる. □学科学習・教育目	票(B) <専門>に,			して実践的な知識と技術 いて学習し,設計概念と こ対応する.
受業の進	め方・方	・「授	業計画」における名	講義中は集中して注 各週の「到達目標」(はこの授業で習得す			5のとする. 年末試験で出題し, 目標
主意点		くしを再半中回験 マルカリ マック マッチ	成績の評価方法およ 間試験が60点に達 った場合には, 60 を行わない. 修得条件>提示され かじめ要求される ! ! で習得したOSの	していない者(無断点を上限として中間 にたレポート課題が全 基礎知識の範囲>本教 操作方法も十分理解	、 関・期末試験の2回 大席者は除く)には 試験の成績を再試験 ○で受理され、学業 対科は材料工学設計	回の試験(100) ま1回の再試駅 食の成績で置き 成績で60点以 製図Ⅰ~Ⅲで	険を課し,再試験の き換えるものとする し上を取得すること	注最終評価点とする.たの成績が中間試験の成績が中間試験の成績る.期末試験についてはな
		<備考	ートなと>字習内容 >定期試験では実技 ・製図Vの基礎となる	試験を行うので,C	『成のため、随時、	演習課題を与:	える. いただきたい. ま	た,本教科は後に学習。
授業計	画	<備考 る設計	>定期試験では実技・製図Vの基礎となる	試験を行うので,C	『成のため、随時、	演習課題を与. 実に習得して 	いただきたい. ま	た, 本教科は後に学習
受業計	画	<偏考 る設計 週	>定期試験では実技製図Vの基礎となる	試験を行うので, C る教科である.	『成のため、随時、	演習課題を与.実に習得して	いただきたい. ま 達目標	
授業計	画	<備考 る設計	>定期試験では実技・製図Vの基礎となる	試験を行うので, C る教科である.	『成のため、随時、	演習課題を与ま 実に習得して 週ごとの到達 1. CADソフ ができる.	いただきたい. ま <u>幸</u> 目標 7トを運用し, デ-	-タファイルの種々取扱
受業計	画	<偏考 る設計 週	>定期試験では実技製図Vの基礎となる	試験を行うので、C る教科である. および図学演習	『成のため、随時、	演習課題を与ま 実に習得して 週ごとの到達 1. CADソフ ができる.	いただきたい. ま 達目標	-タファイルの種々取扱
受業計	画	<備考 る設計 週 1週	>定期試験では実技 製図Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明:	試験を行うので、C 5教科である。 および図学演習 対座標入力	『成のため、随時、	演習課題を与 実に習得して <u>週ごとの到達</u> 1. CADソフ ができる. 2. 絶対座標	いただきたい. ま <u>幸</u> 目標 7トを運用し, デ-	-タファイルの種々取扱 活用できる.
受業計	画	<偏考 る設計 週 1週 2週	> 定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業の概要説明。 図学演習 1 : 絶	試験を行うので、C S教科である。 および図学演習 対座標入力 対座標入力	『成のため、随時、	演習課題を与 実に習得して <u>週ごとの到達</u> 1. CADソン ができる。 2. 絶対座標 3. 相対座標	いただきたい. ま <u>幸目標</u> フトを運用し, デ- 票の概念を理解し,	-タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる.
受業計	画 lstQ	マ偏考 る設計 週 1週 2週 3週	>定期試験では実技製図Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明。 図学演習1:絶。 図学演習2:相	試験を行うので, C る教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図	『成のため、随時、	演習課題を与まれている。 週ごとの到述 1. CADソンができる。 2. 絶対座標 3. 相対座標 4. CADソン	いただきたい. ま 達目標 フトを運用し, デー 票の概念を理解し, 票の概念を理解し,	-タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる. 図を製図できる.
受業計		マ偏考 る設計 週 1週 2週 3週 4週	>定期試験では実技製図Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明。 図学演習1:絶 図学演習2:相 部品図のトレー。	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図	所成のため,随時, ADの使用方法を確	演習課題を与え 選のできる。 1. CADソンができる。 2. 絶対座標 4. CADソン 5. CADソン	いただきたい. ま室目標フトを運用し, デー票の概念を理解し,プトを用いて投影型フトを用いて等角型	-タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる. 図を製図できる.
受業計		マ偏考 る設計 週 1週 2週 3週 4週 5週	>定期試験では実技製図Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明。 図学演習1:絶 図学演習2:相 部品図のトレー。 組立図のトレー。	試験を行うので, C 5 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図	所成のため、随時、 ADの使用方法を確	演習課題を与、 選ごとの到述 1. CADソン ができる。 2. 絶対座標 3. 相対座標 4. CADソン 5. CADソン 6. CADソン	立ただきたい。まま主目標フトを運用し、デースの概念を理解し、での概念を理解し、フトを用いて投影区フトを用いて等角区フトを用いて機械	-タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる.
受業計		マ偏考 る設計 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	>定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶; 図学演習 2:相: 部品図のトレー: 組立図のトレー: 組立図のトレー:	試験を行うので、C 5 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り	所成のため、随時、 ADの使用方法を確	演習課題を与、 選ごとの到述 1. CADソン ができる。 2. 絶対座標 3. 相対座標 4. CADソン 5. CADソン 6. CADソン	立ただきたい。まま主目標フトを運用し、デースの概念を理解し、での概念を理解し、フトを用いて投影区フトを用いて等角区フトを用いて機械	-タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ
授業計		マ偏考 る設計 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	>定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相: 部品図のトレー: 部品図のトレー: 組立図のトレー: 相立図のトレー: 中間試験	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り	所成のため、随時、 ADの使用方法を確	演習課題を与て 週ごとの到近 1. CADソフ ができる。 2. 絶対座標 3. 相対座標 4. CADソフ 5. CADソフ 6. CADソフ 7. 寸法線,	立ただきたい。ま主目標フトを運用し、デークの概念を理解し、フトを用いて投影区の下を用いて等角区のである。フトを用いて機械のでは、フトを用いて機械のでは、フトを用いて機械のでは、フトを用いて機械のできる。	-タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 域製図のトレースができ 図形情報を取得できる
		マ偏考 る設計 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	>定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相: 部品図のトレー. 組立図のトレー. 相立図のトレー. 相立図のトレー. 相立図のトレー. 中間試験 ねじ込み形玉形:	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り	所成のため、随時、 ADの使用方法を確	演習課題を与て 週ごとの到述 1. CADソフ ができる。 2. 絶対座標 4. CADソフ 5. CADソフ 6. CADソフ 7. 寸法線, ・ 制約条件に基 CADソフトを	立ただきたい。ま主目標フトを運用し、デースの概念を理解し、での概念を理解し、である。フトを用いて投影をフトを用いて等角をフフトを用いて機械引出線を描画し、基いて、機械装置を	-タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 域製図のトレースができ 図形情報を取得できる
		マ偏考 る設計 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	>定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相: 部品図のトレー. 組立図のトレー. 組立図のトレー. 相立図のトレー. もじ込み形玉形: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形:	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 弁の設計 弁の部品図の製図	所成のため、随時、 ADの使用方法を確	演習課題を与て 週ごとの到述 1. CADソンができ対解を 2. 絶対対解を 3. 相対対対 5. CADソン 6. CADソン 6. CADソン 7. 寸法線, ・ 制約条件に基 CADソフトを る。		- タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ 図形情報を取得できる を設計できる. 機械の部品図を製図でき
		マ偏考	>定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相: 部品図のトレー. 組立図のトレー. 相立図のトレー. 相立図のトレー. もじ込み形玉形: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形:	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 弁の設計 弁の部品図の製図	所成のため、随時、 ADの使用方法を確	演習に 選習 選びとの 到近との 1. CADソン がで絶対 座標 3. 相対 Dソン 5. CADソン 6. CADソン 7. 寸法線, ・ 制約条件に CADソントを る。 CADソントを る。	 立ただきたい。ま 主目標 フトを運用し、デースの概念を理解し、 プトを用いて投影を プトを用いて等角を プトを用いて機材 引出線を描画し、 基いて、機械装置を を用いて設計したを を用いて設計したを 	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ 図形情報を取得できる を設計できる. 機械の部品図を製図でき
授業計		名の表 名の表 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	>定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相: 部品図のトレー. 組立図のトレー. 相立図のトレー. 相立図のトレー. ねじ込み形玉形. ねじ込み形玉形. ねじ込み形玉形.	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 弁の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図	耐のため、随時、ADの使用方法を確 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	演習に 選習 選びとの 到近との 1. CADソフ ができ対 座標 3. 相対 Dソフ 5. CADソフ 6. CADソフ 7. 寸法線, ・ 制約条件に CADソフトを る。 CADソフトを る。 CADソフトを CADソフトを る。 CADソフトを る。	主目標 フトを運用し、デー の概念を理解し、 での概念を理解し、 での概念を理解し、 フトを用いて投影で フトを用いて等角で フトを用いて機械 引出線を描画し、 基いて、機械装置を を用いて設計したを を用いて設計したを	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ 図形情報を取得できる を設計できる. 機械の部品図を製図でき
	1stQ	マ偏考	>定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相: 部品図のトレー. 組立図のトレー. 相立図のトレー. 相立図のトレー. ねじ込み形玉形. ねじ込み形玉形. ねじ込み形玉形.	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 弁の設計 弁の部品図の製図	耐のため、随時、ADの使用方法を確 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	演習に 選習 選習 選びとの到述 1. CADソン ができ対率を 3. 相対対と 5. CADソン 6. CADソン 6. CADソン 7. 寸法線, ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	主目標 フトを運用し、デー の概念を理解し、 での概念を理解し、 での概念を理解し、 フトを用いて特別で フトを用いて等角で フトを用いて機械 引出線を描画し、 基いて、機械装置でを用いて設計したがを用いて設計したがを用いて設計したがでを用いて設計したがでを用いて設計したがでを用いて設計したがである。	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ 図形情報を取得できる と設計できる. 機械の部品図を製図でき 機械の部品図を製図でき 機械の部品図を製図でき
	1stQ	名の表 名の表 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	>定期試験では実技製図 Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相! 部品図のトレー: 部品図のトレー: 組立図のトレー: 相立図のトレー: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形: ねじ込み形玉形:	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 弁の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図	耐のため、随時、 ADの使用方法を確 軸受	演習に 選習 選習 選びとの到近 1. CADソフ ができ対 座標 3. 相対 座標 4. CADソフ 5. CADソフ 6. CADソフ 6. CADソフ 7. 寸法線, にADソフトを 3. インフフトを 3. CADソフトを 3. CADソフトを 4. CADソフトを 4. CADソフトを 5. CADソントを 5. CAD・ 5. CADソントを 5. CADソントを 5. CAD ・ 5. CAD ・	主目標 フトを運用し、デー の概念を理解し、 アクトを用いて投影でである。 フトを用いて等角で フトを用いて等角で フトを用いて機械 引出線を描画し、 基いて、機械装置でを用いて設計したがである。 を用いて設計したがを用いて設計したがである。 を用いて設計したがである。 を用いて設計したがである。	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ 図形情報を取得できる と設計できる. 機械の部品図を製図でき 機械の部品図を製図でき 機械の部品図を製図でき
	1stQ	《備考 る設計 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	>定期試験では実技製図 Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相! 部品図のトレー: 組立図のトレー: 組立図のトレー: 相立図のトレー: ねじ込み形玉形: れた かいまかれた かいまかれたた かいまかれた	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 弁の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図	耐のため、随時、ADの使用方法を確 軸受 軸受	演習に 選習 選習 選びとの到近 1. CADソフ ができ対 座標 3. 相対 座標 4. CADソフ 5. CADソフ 6. CADソフ 6. CADソフ 7. 寸法線, にADソフトを 3. インフフトを 3. CADソフトを 3. CADソフトを 4. CADソフトを 4. CADソフトを 5. CADソントを 5. CAD・ 5. CADソントを 5. CADソントを 5. CAD ・ 5. CAD ・	主目標 フトを運用し、デー の概念を理解し、 アクトを用いて投影でである。 フトを用いて等角で フトを用いて等角で フトを用いて機械 引出線を描画し、 基いて、機械装置でを用いて設計したがである。 を用いて設計したがを用いて設計したがである。 を用いて設計したがである。 を用いて設計したがである。	- タファイルの種々取扱 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ 図形情報を取得できる
前期	1stQ	<偏考 Sabit 3週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	>定期試験では実技製図 V の基礎となる 授業内容 授業 内容 授業 の概要 説明。 図学演習 2 : 相。 部品図のトレー。 組立図のトレー。 相立図のトレー。 相立図のトレー。 ねじ込み形玉形。	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 分の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製	耐のため、随時、ADの使用方法を確 軸受 軸受	演習に 選習 選習 選別 1. CADソン ができ対 を 3. 相対 P 3. 相対 P 5. CADソン 6. CADソン 6. CADソン 7. 寸法線, ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	主目標 フトを運用し、デー の概念を理解し、 アクトを用いて投影でである。 フトを用いて等角で フトを用いて等角で フトを用いて機械 引出線を描画し、 基いて、機械装置でを用いて設計したがである。 を用いて設計したがを用いて設計したがである。 を用いて設計したがである。 を用いて設計したがである。	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ 図形情報を取得できる と設計できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる。
前期	1stQ	<個考 る設計 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 Jキュラム	>定期試験では実技製図 Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相: 部品図のトレー: 組立図のトレー: 組立図のトレー: 相立図のトレー: 和じ込み形玉形: ねじ込み形玉形: の学習内容と到	試験を行うので、C S 教科である。 および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 弁の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製	耐のため、随時、 ADの使用方法を確 軸受	演習に 選習 選習 選別 1. CADソン ができ対 を 3. 相対 P 3. 相対 P 5. CADソン 6. CADソン 6. CADソン 7. 寸法線, ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	主目標 フトを運用し、デー の概念を理解し、デー の概念を理解し、アトを用いて等角型 フトを用いて等角型 フトを用いて機械 引出線を描画し、 を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 域製図のトレースができ 図形情報を取得できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図でき
前期	1stQ 2ndQ	<偏考 Sabit 3週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	>定期試験では実技製図 Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 1:絶: 図学演習 2:相: 部品図のトレー: 組立図のトレー: 組立図のトレー: 相立図のトレー: 和じ込み形玉形: ねじ込み形玉形: の学習内容と到	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 分の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製	耐のため、随時、 ADの使用方法を確 軸受	演習に 選習 選習 選別 1. CADソン ができ対 を 3. 相対 の 2. 絶対 座標 4. CADソン 5. CADソン 6. CADソン 6. CADソン 7. 寸法線, ・ WADソントを CADV CADV	主目標 フトを運用し、デー の概念を理解し、デー の概念を理解し、アトを用いて等角型 フトを用いて等角型 フトを用いて機械 引出線を描画し、 を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を用いて設計した様を	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ 図形情報を取得できる と設計できる. 機械の部品図を製図でき 機械の部品図を製図でき 機械の部品図を製図でき
前期	1stQ 2ndQ	マーク マー	>定期試験では実技製図 Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 2 : 相: 部品図のトレー. 組立図のトレー. 相立図のトレー. 中間試験 ねじ込み形玉形: ねじ込み形 (本) などが (本) な	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り 分の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製	耐のため、随時、ADの使用方法を確 軸受 軸受	演奏 演奏 調整 週ごとの到近 1. CADソン がで絶対を対解を 3. 相対 Dソン 5. CADソン 6. C A Dソン 6. C A Dソン 7. ・ 制約条件に CADソンフトを CADソントを CAD・ CAD CAD CAD CAD CAD CAD CAD CAD CAD	を用いて設計したをを用いて設計したをを用いて設計したをを開いて設計した。 を用いて設計したをを明いて、 を用いて、機械装置をを用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ図形情報を取得できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる。
前期で対価している。	1stQ 2ndQ	マーク マー	>定期試験では実技製図 Vの基礎となる 授業 内容 授業 の概要説明: 図学演習 2 : 相: 部品図のトレー 組立図のトレー 組立図のトレー 相じ込み形玉形 ねじ込み形玉形 ねじ込み形 など はいままだちがある はいままだちがある はいままた ないままた ないまた はいまた ないまた ないまた ないまた ないまた ないまた ないまた ないまた な	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り ス2:ラジアル滑り 分の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製 角の設計組立図の製	耐のため、随時、ADの使用方法を確 軸受 軸受	演奏 演奏 調整 週ご CADソン がで絶対対 A. CADソン 2. 相対 D. CADソン 5. CADソン 6. CADソン 7. 対 制約条件にある。 CADソンフトなる。	を用いて設計したを用いて設計したを用いて設計したをを用いて設計したをを関いております。 した を の し の と の 他 を の し の と の 他 と の か と か と か と か と か と か と か と か と か と	- タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 機製図のトレースができ 図形情報を取得できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図でき 機械の部品図を製図でき 機械の部品図を製図でき
前期・デスター・デスター・デスター・デスター・プログラン・アン・プログラン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	1stQ 2ndQ	マーク マー	>定期試験では実技製図 Vの基礎となる 授業内容 授業の概要説明: 図学演習 2 : 相: 部品図のトレー. 組立図のトレー. 相立図のトレー. 中間試験 ねじ込み形玉形: ねじ込み形 (本) などが (本) な	試験を行うので、C S 教科である. および図学演習 対座標入力 対座標入力 ス1:投影図 ス2:等角図 ス1:ラジアル滑り 分の設計 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の部品図の製図 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製 弁の設計組立図の製	耐のため、随時、ADの使用方法を確 軸受 軸受	演奏 演奏 調整 週ごとの到近 1. CADソン ができ対率を持て 2. 絶対対 2. 絶対対 2. を対応を対応を持て 3. 相対 2. でき対率を持て 5. CADソン 6. C A D ソン 6. C A D ソン 7. ・ 制約条件にま CADソンフトを CADソントを CAD・ CAD	を用いて設計したをを用いて設計したをを用いて設計したをを開いて設計した。 を用いて設計したをを明いて、 を用いて、機械装置をを用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 を用いて、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	-タファイルの種々取扱活用できる. 活用できる. 図を製図できる. 図を製図できる. 成製図のトレースができ図形情報を取得できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる. 機械の部品図を製図できる。

鈴鹿	工業高等	等専門学校	開詞	講年度	平成28年度(2016年度)	授	業科目	電気電子	要素	
科目基礎	 計					-					
科目番号		0080				科目区分		専門/選	 択		
授業形態		授業				単位の種別と単位	数	学修単位	: 2		
開設学科		材料工学	<u>料</u>			対象学年		4			
開設期		後期				週時間数 2					
教科書/教	材										
担当教員		辻 琢人,	柴垣 寛治								
到達目標	Ę										
ルーブリ	リック										
			理想的想	な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達レク	ジレのE]安	未到達レハ	ベルの目安	
評価項目1											
評価項目2											
評価項目3											
学科の到	達目標	項目との関	係								
教育方法	等										
概要											
授業の進め	方・方法										
注意点											
授業計画	Ī										
		週	授業内容			;	週ごと	の到達目標	票		
		1週									
		2週									
		3週									
	3rdQ	4週									
	3.42	5週									
		6週									
		7週									
後期		8週									
		9週	-								
		10週	-								
		11週 12週	1								
	4thQ	13週	 								
		14週	1								
		15週	<u> </u>								
		16週									
モデルー	フカロ	<u> </u>) 学型内容	2上到達	 :日煙						
分類	17 717	<u>イユ ブムの</u> 分野			<u>:ロ伝</u> 学習内容の到達目	 I煙				到達レベル 授業	调
評価割合	<u> </u>	[712]		ווים ביו	,自己已公式连口	I IAN				エルモレ・ VV J又未	.~-
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		 t験	発表		相互評価	態度	ポー	 トフォリオ	その他	合計	
総合評価割			0		0	0	0	1 // //	0	0	
基礎的能力			0		0	0	0		0	0	
専門的能力			0		0	0	0		0	0	
分野横断的			0		0	0	0		0	0	
/ノエコ 宍口 口	סן כיסנוי					19	10				